

囲碁入門講座通信 令和2年 第12号



報告:有楽斎

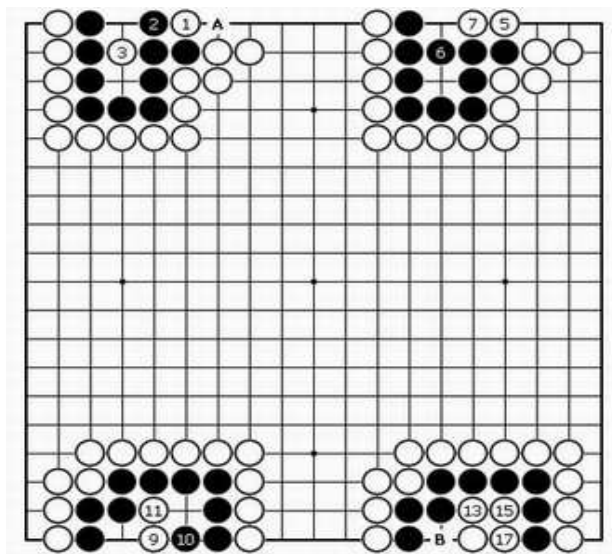
毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中です。**
(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用の練習問題を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

超やさしい死活入門②

3～5目のスペース／眼の急所を知る

前号(第11号)に続き、次の一手で石が生きたり死んだりする形を学びます。題して「超やさしい死活入門②」です。地となるスペースが4目の場合から5目の場合まで、順番に見ていきます。



・片あきの形

左上(ハネ) 黒は4つのスペースがありますが、片方(1の地点)が閉じられていません。黒番なら1に打って生きますが、白番ならやはり白1が急所。黒2に白3で黒は簡単に死にます。このあと黒がAと白1子を取っても、1の抜きあとはカケ眼になります。なお、白1では3と眼の急所に打っても黒を殺すことができます。

右上(変化) 変化図です。白5とハネたときに黒6と眼を作れば、白7とこちらの眼を奪います。やはり黒の死に。

・5つのスペース

左下(5目の急所) 5つのスペースがあっても、白番なら殺すことができます。白9が5目の急所で、黒10には白11。また、黒10で11なら白10と打って、黒地は最終的には3目になるので死にます。黒番で生きる場合は同じく9の地点が急所。このほか黒は10や11でも生きることができます。が、9と打つのがしっかりした形で満点です。

右下(手抜きは) 黒が放っておいた場合でも死んでいるという証明です。白13～17まで「4目の正方形」の形になります。このあと黒Bと取ってもこのまま死になのは、すでに前図で説明してきたとおりです。